

主題：神の奥義の執事

メッセージ 29

キリストの配偶者としての召会——アビガイルの予表

聖書：サムエル上 25:2-42. コロサイ 1:24. 啓 1:9. エペソ 6:10-20

I. ダビデは、苦難のただ中であって戦うキリストを予表します——サムエル上 25:28：

- A. ダビデは、旧約において最も完全なキリストの予表であり、最も長い期間を占めています——マタイ 12:3。
- B. ダビデが予表するのは、復活の前の地上における苦難の中にあつた人としての主イエスです。ダビデの苦難は、横領する敵を征服し、良き地、すなわち神の建造のための立場を得るためでした——詩 69:1-9。
- C. ダビデは神の心にしがって人として備えられました。彼は神によって選ばれ、訓練され、油塗られ、テストされ、承認されました——サムエル上 16 章— 17 章。
- D. ダビデがサウルによって迫害され、試みられたことの記録の中で、二つの顕著な点があります—— 18 章— 24 章。
 - 1. 第一の顕著な点は、神の主権です——啓 4:11. ダニエル 4:1-3, 34-35：
 - a. わたしたちが神の主権についてのビジョンを見ることは極めて重要で——ローマ 9:19-23。
 - b. 主権ある方として、神はすべてのことの上におられ、すべての背後におられ、すべての中におられます——列王上 22:19。
 - c. 神はサウルを用意してダビデを成就し、ヨナタンとミカルを用意してダビデを助けました——サムエル上 18:10 — 20:42。
 - d. ダビデは神に信頼し、彼のすべての試練の中で神の主権にしがって歩きました—— 17:36-37. 23:14-16. 30:6 後半-10。
 - 2. 第二の顕著な点は、ダビデが十字架の学課を取ったということです：
 - a. ダビデはとても迫害され、苦難を受けましたが、決して戦わず、反応せず、応答しませんでした。新約の用語を用いると、彼は常に十字架の下にいたということです—— 24:3-22。
 - b. ダビデがサウルとの関係においてテストされたことは、ダビデが絶えず十字架につけられていたということの意味しました——マタイ 16:24。
- E. ダビデは、神の心にしがって振る舞い、存在しました。彼は自分自身に対して何の感情も持たず、ただ神の民と神の王国のために労苦し、行動しました——サムエル上 15:28。
- F. ダビデが神によって立てられたことは、ダビデがペリシテ人に繰り返し勝利したということで見ることができます——サムエル下 5:17-25。
- G. ダビデは神と一でした。ダビデのものは神のものであり、神のものはダビデの

ものでした。ダビデと神にはただ一つの王国がありました——使徒 13:22, 36。

H. ダビデに関するあらゆることは、神の主権ある方向づけの下で案配され、ひとつのこと、すなわちご自身の選民の中でご自身の王国を建造することを達成しました——マタイ 6:10, 33。

II. アビガイルは、苦難のただ中であって戦う召会を予表しています——サムエル上 25:2-42：

A. サムエル記上第 25 章から、アビガイルは常にダビデのそばにいて、彼の戦いの中で戦い、彼に従いました——40-42 節：

1. アビガイルとダビデの結婚が予表しているのは、戦いのために軍隊として入った召会です——エペソ 6:10-20。
2. アビガイルは戦っている召会を予表しており、苦難のただ中で神の王国のために戦っています——啓 1:9, 11:15, 12:10。

B. アビガイルの予表は、わたしたちがキリストの苦難において、彼と一になる必要があることを描写しています——ピリピ 3:10, コロサイ 1:24, 啓 1:9：

1. キリストの苦しみには二つの区分があります。キリストご自身によって完成された贖いを成就するための区分と、使徒と信者たちによって満たされる必要のある、召会を生み出し、建造するための区分です——コロサイ 1:24。
2. パウロが神の執事職に関する文脈で、キリストの苦しみについて述べた事実が示しているのは、執事職は苦難によってのみ遂行されることのできるということです——25 節：

- a. わたしたちが神の執事職にあずかることを願うなら、苦難を覚悟しなければなりません——啓 1:9, II コリント 1:3-6。
- b. 召会の奉仕、あるいは務めにあずかる人たちはみな、執事の苦しみにあずかる用意ができていなければなりません。これが意味しているのは、わたしたちは自ら進んで必要とされる代価を何でも払い、わたしたちの執事職を満たさなければならぬということです——4:10-12, ヨハネ 12:24-26。

C. アビガイルの予表は、召会が主イエスと共に、霊的な戦いに加わることを描写しています——エペソ 6:10-20：

1. 神の永遠の定められた御旨が成就し、また彼の心の願いが満たされなければならぬだけでなく、神の敵も打ち破られなければなりません。このために、召会は戦士とならなければなりません——1:11, 3:9-11, 6:10-12。
2. サタンの意志が神の意志に敵対して立てられたので、霊的な戦いが必要とされます——マタイ 6:10, 7:21, イザヤ 14:12-14。
 - a. 霊的な戦いは、神の意志とサタンの意志との間にある衝突をその根源としています——
 - b. 召会としてのわたしたちの戦いは、サタンの意志を服従させ、神の敵を打ち破ることです——啓 12:11。
3. 霊的な戦いの目的は、神の王国をもたらすことです——10 節：
 - a. 霊的な戦いは神王国とサタンの王国との間にある戦いです——マタイ

12:26, 28。

- b. 地上における召会の働きは、神の王国をもたらすことです—— 16:18-19。
- 4. サタンは、キリストのからだとしての召会、すなわち、サタンと彼の王国に敵対して戦う団体の戦士を恐れています——雅 6:10. エペソ 6:10-20。
- 5. キリストは、何年もの間、神の敵に対して戦いを戦ってきた人と結婚します——啓 19:7-9, 11-16。
- 6. キリストの花嫁を構成する勝利者は、神のすべての敵に対して戦いを戦い、彼らを打ち破り、神の王国をもたらします—— 2:7, 11, 17, 26. 3:5, 12, 21. 11:15. 12:10。

© 2010 *Living Stream Ministry*